明治二十三年九月一日印刷
明治二十三年九月一日出版

（非賣品）

婦人衛生會雜誌

第十三號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌

第十三號

目次

惡疫流行時の注意　宮本仲君
虎列剌豫防　坪井次郎君
虎列剌の話　中濱東一郎君
本會錄事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第十三號　明治廿三年九月一日發兌

惡疫流行時の注意　（八月臨時會講演）

宮本仲君演説
細與二郎筆記

さて皆樣私は虎列刺豫防に關する何にかの御話をして呉れと云ふ俄かの御依頼を受けましたが、どうも良い考の出んには困りました、併し次席に中濱及坪井の兩君が衛生學專門なれば其必要なる御話が十分にある筈で御座いますから、私は只烏渡と心付きました豫防の事の一口話を致すのみです、此後御二人の御咄を御聞き下されば夫れで宜いのです、併し何んでも澤山に見たり聞たり杯すれば、夫が遂に馴れになりて彼迄耳目に殘つて付て居る故に彼程衛生と云ふものは面白そうだ一寸遣て見たいなと思召す時も出ませうから私のつまらぬ説まで申上る事になりました、暑い處御迷惑で御座いませふから本の豫防の表面丈を簡單に致し置きます。

御斷り申します前置き迄に先づ貴婦人方に御考へ下されたいと願ふのは、玆に烏渡譬へて見れば此學院前の原には草も生へて居る木も茂つて居る、併し石の上には一向生育しては居らない、固と草木は適當の土地の上で無ければ無暗に生へる者でも御座いません然らば何うして石の上には草が生へないか、又家の中には何うして木が茂り得ないかと云ふ事を考へて頂かなければなりません、

草が通常の土の上には生へて居るが其草を拔て土の外に移す(即石の上などに置く)時は遂に必ず枯れて仕舞ふ、木も亦其れと同樣枯れて仕舞ふと云ふのは、是れ他にあらず土は濕り氣を含み又肥料も多少有るに依つて成長するに適する、即ち草の發育が充分であるから成長するのです、之に反して若し同じ土だからと云つて簷の下や家の壁など乾き切つたる處に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は如何なる草も成長は六ヶ敷、又た禿げ山の赤土の上に草木を持つて往つて植へた處が中々生長はしない筈です、然らば其成長せずに枯れて仕舞ふと云ふ譯を能く考へて頂かなければなりません、此等の譯から私の申上る話が判り升のであり升。

其處で虎列剌の病毒と云ふもの丶本躰は貴婦人も御存じの如く肉眼には見へないが甚だ小さい黴です、此細黴は元と下等植物の一種ですから矢張草や木の成長するが如くに次第に成長もする増殖も致すものです、即ち其養を得て成長するに適宜の場所であるなれば忽ちに蕃殖する、併し又成長するに適しない場所であるなれば其黴は忽ち枯れて滅して仕舞うに違ひない、草木と同じ道理であります此黴の生長して害を爲ると人間の體も草木の土地に於けるが如く、矢張夫と同じ道理を以て黴の繁殖に適當せると否らざるとの別があるで有り升、即ち人の體が十分丈夫で胃や腸が尤も強よくありましたならば病毒が來りてお腹の中で發育したいとしても中々其目的を達する事は出來ない、草でも黴でも場所に由つては害をなす勢力も無く直ぐ枯れて仕舞はなくてはならない併し乍ら若し夫れと反對に其人が不健康で腸胃の病でも煩ろふて居るとか、若くは不良の食物でも喰べて黴の發し易い下拵をして置けば、病毒の本躰即ち其黴が來り付て腸の中で忽ちに成長し速かに繁殖する事丁度草や木が原野の中で成長し易いと同じく僅の間に澤山増殖して恐るべき害を及ぼす事に成るで有り升、個樣の人を疾み易き素質を具へたものと申し升。

先年（明治十五年）私が或る病院に於て虎列剌の患者四五百人を診察ました、其中で何ほ精神の確にして本當なる返答の出來る病人に對して聞て見た事があり升が、其數大概五六十人を集め升た夫は左に御話

しする所です。其頃も又は近日も新聞などに見え升通り、或る患者は海老を食つたから俄に下痢を催ふしたとか、酒を飲み過ぎたから吐したとか、又は豆腐が原因にあつたとか、種々何でも角でも病原の様に申しますが、是れは恐らく眞の原因と云ふでは無くして、ある時病毒に既に感じたる人に於て其病害の暴發を逞ふし能ふべき機會を誘引ひ出す所の誘因とあるものであると考へた、今之を譬ふれば乾燥たる土中に植物の種を蒔きてある間に、一雨來りて芽出を催促したると同樣あり、又は種のこぼれる時に芽出に適當なる質の土地と成り居ると同じ論なりと思ひまして、却說其暴發する狀况は何樣であるかを尋ねる事としました、尤とも十五年の頃には虎列剌の本體ある黴菌は未だ不分明でしたから、猶更其病發は一頓に來るものか、又は已前から數日の間催しがありて遂發り詰めて吐瀉の度に達するものかの調べを致し度一々病人に聞きました、「發病の前は尤とも丈夫で下痢や痞やなどは全くなかつたか、或は又た其已前幾日間か多少腸胃の容躰でも之れありしかドウダ」種々と尋ねました、然る處が其五六十人の患者の中でたつた五六人は一向不明で有つたり、或は俄に吐瀉を催しましたと答へた者も有つたが、併し其他の者は殘らず數日前より少しづゝ下つて居たとか、又は食事が不味かつたとか云ふ事を申しました、即ち腸胃の容躰があつたと云ふ事を慥かめたは五六十人の中五六人を除く外皆でありますから、之を百人算にすれば八十餘九十人迄は下痢や停滯など何か病氣の根の在る人で、眞の突然に起ると云ふは十分の一位に他過ぎません、併し其頃には此等の下痢は已に其中に黴が在りての故か一向發見の仕方がなかつた、加之ならず夫は病人に就て試驗する事が出來ない譯もある

のです。
何故と云ふに不注意の者は少々位の下痢である時は診察を受けに來ない、又コレラに成つて後其已前の下痢は既に虎列剌症が久しくあつてから下痢が來て又た其の爲めに虎列刺に成つたのだか解らないが、併し何しても早く小患の中に醫療を受けたらば之を暴發の未然に防ぐ事を得だろうか抔と回顧致し升。
却説胃腸の容躰ある人は侵され易き事が實地ですから、貴婦人方も寢冷過食などなひ樣に御注意遊ばせ、夫れに近年は既に病の本躰も分り其消毒の方も色々知れて參りたれば此にも御注意ありて苟にも御油斷在られません樣に御心掛け願ひ升、衛生の實行上此等の事も亦た大切です。
元來夏時は腸胃を害され易き時節柄で前々から食事が不味あつたとか、少し寢冷して腸胃の工合が能くなかつたとか云ふ事共が起り易すい頃ひで有る、殊に惡疫の流行する年柄などには此樣の事があり易いから、若しもそふ云ふ兆候のあつた時には早く醫師の適當なる手當をして貰はなければならないと云ふ事を能く／＼御承知置きを願ひたい、なぜなれば前にも申した通り斯く弱き身躰の中では黴が充分發育する下地のあるものとすれば、其體を丈夫にし其下地の起らぬ中に手當をしなければならない、然るに其手當を怠れば終ひに大なる患ひを醸すに至る事が必ずあるのであり升、御覽なさい家が少し傾た時に早く已に支柱をして置けば其壞るを防ぐ事が出來るが、大破に及んでからはもう迚も支へは出來ない、よしや支へる事が出來るにしても澤山の支へ棒と澤山の人手を用ひなければ以前の儘に保つ事は出來ない、虎列剌の黴菌は「コレラ」の容躰が初て暴發する時に頓に來て害を爲したのではなく恐らく其以前腸胃の容躰が始つた頃既に來たりて成長をなしたので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あらう、故に悪疫流行時の水瀉などは甚だ劍呑です必ず早く醫治を加へなければならぬ者と思召せ、併し夫れ等の下痢は急度皆な病毒の爲めに因るもの而已だと云ふてはならないから、其下痢なぞ腸胃の容躰が少しあつた迚さて虎列剌の始めになつたのだろう杯とお考へて空に御心配があつては却て悪いです、精神の非常に恐れや心配で動き勞れるのも亦た宜しくない恰も敵に隙間を見せるのと同樣であり升、故に貴婦人方は何處迄も養生法衛生法には十分念を入れてお勤め遊ばすが宜しい、そして病氣上一切の心配は總て醫者任せとしてお置きが便利です、サテ其下痢は初めは虎列剌毒の爲めではなしとも何時か虎列剌の來て附き易い性質の者で有るのです、今申した通り土に適宜の肥料を置ひて草の實が風に連れられたりして來ると直ぐに發生る、夫れと同じく人間の體が黴菌の發するに適して居るなれば直ぐに傳染して其人を斃すに至るもので有るから、或る機會即ち僅かでも食物の胃の中腸の中に消化する事が不十分となれる樣な事が有つたらば、夫れはモー直樣黴菌が乘り込來りて發育するの恐があると思召さなければなりません。

夫故に若し虎列剌の時分に少しの痞塞又は腹痛があるか、或は一二度お腹が下痢たとか、食事が喰べられないとか云ふ容躰がありたらば、尤も注意なさらねばならぬ、若しや彼樣の時に食べずに居ては疲れるだらうから無理にも我慢してお茶漬でも一杯喰べたら能かろふと考ひ、又た能く人が勸めたりするは大に誤りであります、美味物でも出來て可成喰べたら善さそうに思わるれども、併し此強ひて喰べると云ふ事は大變に體を害するもので其當座は澤山喰べたから力が附て宜しい樣ですが、後が却て疲れるから害ありて悪いです、故に喰べられないからと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て味ひを能くして口にのみ好かせて喰べさせるより自然に喰べられる様に腸胃を丈夫にしなければなりません、併し不味ものを御喰りなさいと申すのではなく心底より食事の進む様の體にならなければなりませんと云ふのです、左様遣るには何うするかと云へば少し腸胃の容躰かあしくば直ぐに適當の醫者を招きてそして健康を保つて居らなければならない、病氣に勝つにはドーしても醫者の藥でなければなりませんから早く治療を加へて下痢を止め甘しく喰べられる様にしなければなりません、何んでも病ひは早く療治をしなければならんもので嫩の中に芟つて仕舞わなければ終に斧を用ひなければ伐倒れぬ様になります、同じ病氣でも黴菌でも早くさへ摘んで仕舞へばなんにも六ケ敷い事はない、日ならずして善くなります然るを種々の賣藥なども當坐の間に合せを爲し居らるゝは、近日の如き時節には尤とも感心出來ません、即ち便秘したから三應丸を飲むとか、身躰が惰いから血の道一切の藥、妙振り出しても服さうとか、一時逃れの所置は宜しくない當れば良し當らなければ危ない、賣藥品に依り善し惡しです、血のみちとしても御存分の治療をしなければ矢張危險から、本當の醫者に掛らなければならない、餅やは餅屋醫者は醫者に配劑て貰らわなければいけませんと云つて私は貴婦人方を皆んな私の病家にしようと思つてお勸め申すのではない、左程爪の長い魂情でなく深切の話です、若し御體に變常ある時には急度適宜の醫者を見付けてお掛りなさらなければならないと云ふ事は充分お勸め申します。

夫に就てモウ一ッ申上げたい事は夫と反對に（いつでも不潔いお話をしてすみませんが）大便が強く結する事がある、其時にお腹が脹ていけないから何にか快通丸とか腹内掃除丸とか云ふ藥を飲んで下に拴

を抽いたらよからうと下劑を用ゐるとがあるが、虎列剌流行時などには甚だ是は危ない、元來藥劑を召食つて然るべき時に召食るのはよいが、召食るまじき時に召食ると宜しくないから之も醫者に診察して貰つて夫からになさる方が宜しい、便秘甚しければ灌腸が宜し然れど是もよいか悪いか其邊も醫者にお聞きなさらなければありません、素人療治は劔呑ですから御注意までに申上げます。

其外腸胃を損する所の飲食、夜分に衣衾を脱して寢冷すると、家屋を不潔にする事等の害は甚だ多きが故に、尚ほ衣食住などに就て諄々申せば色々の注意が御座いますが、其等の事ならば矢張前に申す通り中濱坪井兩君に於て演べらるゝ筈で御座いますから委しき事は尚ほ更に御聞き下さい。

其次に豫防の爲めに石炭酸を撒くとか石灰を撒くとかいふことに付ても御兩人の御話が御座います、府下でも其區々々で此頃劑物抔を配つて居りますから貴婦人方も銘々お分りになりましたらうと思ひます、暑い時分に澤山の時間を費すのも誠に御氣の毒で御座いますから略します、先づ能くあり易い所の一寸した素人療治の如き極僅の油斷が虎列剌について大變恐しいといふ事、幷に皆様に於ても是非衛生上の厚き御注意を以て疫病などの侵し易き素因を除れて在らせられ度様希望の點だけを一言申し上げて今日は御免を蒙ります。

虎列剌の豫防　坪井次郎君演説　佃與二郎筆記

虎列剌の豫防も種々御座りますが、私は重に極く近い所の食物、衣服抔の事に就て御咄しを致します。

四五年以來虎列剌の流行がありませんで、大きに安泰と思つて居りましたが、又此頃流行つて參りました、恰度先々月の末に長崎に起つて夫れより漸々と九州の方に擴がり、遂に横濱迄參りまして、今日の

處では東京の市中にも大分患者が出て來る樣な譯で御座います。誠に容易ならんことであるから、誰しも此事は注意しなければなりません。今迄も日本には數回虎列剌の流行がありまして本病の恐ろしき事も知り居りまするし、何本年は物價騰貴にて貧民も多う御座いますから、虎列剌が東京へ這入つては非常に盛になるといふ恐れが有りまする。夫故政府に於ても殊更此事に注意をなされて、そして出來得る丈けの豫防を(東京は申すに及ばず各地方に於ても)致されて居ります。故に皆樣方も政府より出た所の規則を御守にならなければならんのは勿論の事でありますが、亦近く皆樣の御家においでの時に細かく御注意あらねばならん事がいろ／＼有りますから、夫れ等の點を烏渡と述べ樣と思ひます。

第一は身躰を淸潔にすることでありますが身躰を淸潔にすることは皆樣に御話し致す迄の事ではありませんが、併し御宅に御召使の車夫馬丁抔に「身躰を淸潔にするは大切なことである」と能く仰せ聞けて戴きたい、(淸潔にすると云ふは外の事でなく成るべく入湯を怠らない樣にして居るのが大切であります)又是れは身躰に關係しまするから序に申上ますが、王子團子坂抔に瀧が有りまして暑い時は瀧を浴びに往く者が多く有りますが、瀧を浴るのは能くありません。何故なれば大變暑い思ひをして參いつて、ソして一時に冷たい水に觸るゝと御腹を冷やし工合を損じ下痢を起すことがありますから、瀧を浴びに往くは虎列剌の流行時には能くない事であります。虎列剌流行時には勞働を過したり、夜深しをしてはなりません、身躰に近く接して居るのは、衣服であるが、衣服は固より淸潔なる物を着る樣にしなければなりません、衣服の中でも上に着る物よりも身躰にチカに附る襦袢浴衣抔は、殊更汚れた物は必ず每日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

必らず取り換へる樣にしなければなりません。決して垢の附いた物、汗じみた物、濕めつた所の衣服は着ない樣にしなければなりません。又眠りに就く時は、寢冷をせぬ樣に腹部をフランチルの切にて卷いて、御就寢なさるが宜しい、外國でもコレラの流行まする時は、皆注意して腹卷を致します。又寢具等も奇麗に仕なければなりません、且寢道具は日々表に出して日光に干し乾かされるが宜しくあります。
次ぎに家の事に就ては洒掃が大切です、日本では毎朝洒掃する事は習慣に成つて居りますから、宜しう御座いますが、一所にふきさうじをも仕ないではありません、殊に勤めて奇麗にしなければならぬのは雪隱下水です。不潔物が下水や便所に溜まりて惡疫流行時には最も宜しく有りませんから、出來得る丈注意して度々不潔物を取除ける樣にしなければなりません。其外消毒藥を入れて其中の病毒を殺す樣に仕なければなりません、其邊の事は中濱君より委しく御話しが有らうと思ひます。
夜る寢ます時に熱いと云ふて窓を明けたり雨戸を明け放しにして寢ますのは甚だ宜しくない、少こし熱くも仕方がない眠りに就くときは、窓戸を閉ぢなければなりません。以上は極めて簡畧に家屋と衣服との事を御話し仕たのですが、是から最も大切なる事は食物です虎列剌病の病毒は御腹の中に有るのですから氣を付けべきの一番は食物です。併し食物が大切といつても餘り氣を揉み過ぎて平素喰べ慣けない物を喰べるなどは宜しくない矢張平日より食し慣れて居る消化の宜しきものを用ゐるが宜しくあります。又食物に注意すべきものは種々ありまして、野菜にしろ、肉類にしろ何んでも新らしきものを撰ばなければなりません。少しでも腐敗の傾あるものは夢にも食べない樣にしなければなりません、下婢などは

兎角臭ひの有るものでも、モッタイないとか云ふて喰べるの習慣の有るもので、之は至極危くあります から、此事を深く下婢などに御命じになつて、コレラ流行の際には少こしの事を吝んで、其れが爲に非常の損失を招く樣になるから、食物の臭のあるものは、悉く捨てゝ仕舞はねばならぬぞよと仰せられたし。次に又食物に就て申上べきは食事を程能く召上つて、余り一度に喰べ過ぎない樣にしなければなりません。ソーかと云つてお腹の空腹て居るのを堪へて居るなどは甚だ宜しく御座いません、必ず三度の食事を時を定めて上る樣にしなければなりません。次に菓物などは余り喰べない樣にしなければなりません。極めて新らしき熟したるもの、即ち梨の如きものを少々喰べる位は宜しひが、夏は誰れも菓物を好むから、自然餘計に喰べ過ぎ勝のものでわりますから、精々節する樣に仕なければなりません。又コレラの時に惡い食物は海老、章魚、蕎麥、枝豆の類です。其他脂濃ひものは惡い、彼の天麩羅、鰯、支那料理の如きは皆宜しくない、又鰻飯の如きものも脂が多ひから、餘り餘計に喰べない樣にしなければなりません

ソレから終に食物の中で最も大切なるものは水です、井戸水道に限らず其儘飲むと云ふのは能くない、一度沸立て沸騰した者を飲むが宜しい。然るに沸騰した水は味が能くありませんから、麥湯或は煎茶にしてソレを冷して飲めば宜ろしい、ソレから氷水ですが、是れは御腹を冷やす者ですから、辛抱得られるならお飲みなさらぬが宜しくあります。

コレラの流行する時の精神の關係を一寸申べ置きますが、コレラ流行の際に精神を費すと云ふ事は宜しくない、餘り心配するなどは能くありません、コレラの流行時は殊にコレラを恐れると云ふ心配が多い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のです。誰も虎列剌の好な者はありませんが、中には非常に之を恐れる人があります。素より命は大事な者に相違ないが、餘り恐れ過ると云ふ事は能くない、先コレラの豫防法を充分御守りに成つて居れば左樣にコレラが感染する者では御座りませんから、出來得る丈けの御注意さへ成されば恐れる事もありません、反つて此恐怖心が手傳つてコレラ病を招く事がありますから、氣を付けねば成りません。コレラを非常に恐れる人には、何處に何ういふ患者が行つたとか、病院に送られたとか、何處の近所に始まつたとか云ふ事は、お話しにあらぬ樣に願いたい。それよりもコレラの豫防に就き御話しなさる方が宜しくあります。

コレラの流行します時に日中暑い時に長い道を歩行き或は人の大勢集まる處に行く事は餘り宜しくありません、尚ほコレラの殊に流行する場所に行くのも宜しくありません。又寢冷したとか體に惡るい所があるとか云ふ時猶更お腹が緩んで居る時は（先程宮本君の御話の通り、早くお醫者を招いで診察して貰ふ方が一番です。下痢の起るのは晝間より夜の方が多いから、夜分深夜に醫家を招くは氣の毒だと云つて翌朝迄放擲つて置くのが多いが、ソレは宜しくありません、夜分でも下痢があつたら直くに醫家をお招ぎなさい、醫家も又行かねばならぬ義務があります、コレラの流行時には種々の賣藥が出來ますが、ソレ等は餘り信用成さらないで、醫家の治療をお受け成さるが一番宜ろしくあります、早く治療をすると云ふ事は誠に大事であつて手後れの爲めに治すべき患者が死んだ例しは幾等もあります。夫故少しても體に惡い所があり下痢の樣な事があれば直ぐに醫家の治療を受ける事が必要であります

虎列剌の話

中濱東一郎君演説
佃　與二郎筆記

令婦人令嬢に申上けます、今日本會をお開きに成つた御趣意を承りまするど、虎列剌の流行に就ての樣に承りましたから私も虎列剌の事を御咄し致します、今日は長與專齋君が出られる筈で御座いましたが、此頃衛生局は非常に繁忙しく長與局長初め一統毎日朝は早く出て夕は燈火が點いてから引取る樣な譯で、日曜日も祭日も休みなく私も只今茲に出ます迄は内務省で事務を取つて居りました位いで、それのみならず長與君は病氣になられまして衛生局でも藥を飲みながら事務を取らるゝ位で御座います。併し本會には是非共出たいと言つて居られましたが何分病氣で何うも出られないから、能く皆さんに御斷を申上げて呉れとの事で御座いました、其代り私に何にか御咄しを申上げる樣にと云ふので私が代りに出ました、誠に御氣の毒な譯て御座いますが暫時御聞き下さる樣に願ひます。

只今宮本、坪井の兩君が御演説なされました通り、虎列剌が漸々流行して參りまして此頃では東京にも隨分流行つて參つた、併し東京に居りまして考へると左程に虎列剌は無い樣であるが、併し日本全國中で何の位患者が有るかと調べて見ると心細くなる程心配で御座います、ソレ故東京でも何時大流行をするかも分明ません、全國の虎列剌患者の數を衛生局で調べて參りましたが一昨八日一日の中に殆んど二百人の病人がありました、中には遲れて届け出るのもありますから二百人以上でありましよふ。又全國中の病人は初發より昨日迄に三千四百〇四人、三千四百人と云てハ、隨分大した數で容易な事でハない、東京斗りでハ初めより今日十日の十二時迄に八十五人の病人が出來ました、また今朝の零時即ち昨晩の夜中と今日に至りまして私の此席に參る迄に（午

后二時半）届け出た病人ハ、女が三人、男が一人、今晩ハ尚餘計になるであらふと思ふ。それですから先づ只今の有樣では病人が益々增加て往く、只增加る斗りでなく流行する地も益々廣くなりますから、余程大切な所で此時で少々不注意の事がありますると、明治十九年の如き大流行が無いとも云へない、又本年度に大流行が有りませんでも明年に成つて何んな大流行が有るかも知れませんから容易ならん時であります。

この恐るべき虎列剌の流行を防がふと云ふには、前席に皆さんが御述べに成りましたる「惡疫流行時の注意」「虎列剌豫防」此の二つをさへ守れば決して恐るゝに足らん譯であります。虎列剌病ハ人の力で撲滅する事が出來るに、それが出來ないで今日の樣に大變に病人の出來ると云ふハ、如何にも殘念な譯であります、殊に御承知之通り外の病氣は左程餘計に死ぬ者ハ少ないが、虎列剌は罹病つた者の半分より多く死にます、殊に此病に罹る者ハ壯年の者に多う御座います、赤兒老年の者には割合に少ない、大抵二十歲以上四十歲以下の者則ちそれ〳〵事業に就て働ひて居る日本國に取つて大切なる人が餘計に死にますから、殊更恐ろしい病であります、而して今迄は何うしたら此の病が防げ樣かと云つて豫防法に取り掛るのは、何時でも「歐羅巴各國共に虎列剌の流行した後で騷ぎ出すので、盜賊を見て繩をなうと同樣で、人々の注意ハ後になり恰度注意が虎列剌の供をして往く樣なものであるから其注意は何にもならない、併しながら東京で今日防いで居る注意ハ始めて虎列剌の先きに立つて恰度虎列剌に注意の供をさせると云ふ有樣でありますから、今日豫防の事を申して居るのは誠によろしいので、今日まで未だ大流行を來たさんのは詰り豫防の方法注意が整つて居

る故であると思ひます、それでも未だ何うしたら倘ほ一層良い豫防法があらうかと云ふ事は始終相談して居るのです、豫防法の完全なるに付何處に病の毒が有るか其毒はどんなものかを知らなければなりません其病毒のある所が分明んでは到底豫防も出來ない、海嘯の豫防をするには土手を築かなければならん、家の中に日光の這入らん様にするには日除けをしなければならん、虎列刺の豫防も其通り其病毒は如何様なものか確めなければならん、然るに幸ひに今日では虎列刺の病毒が分明つて居る。風などは人間の目では見へないが虎列刺の病毒は人間の目に見へて居つて何處にあると云ふ事も解かつておりまして、其形成長の様まで分明つて居る、それてすから今日致しまする豫防の策と云ふのは確實な法でありますから、皆さんは坪井君や宮本君の御述べに成つた事を御守りになれば、虎列刺病はソンナに恐るゝに足らないものである、世間の人が一同に注意しますれば虎列刺の東京に流行する事は万々無いと信じます。

虎列刺の病毒は恰度黴の様な物、南瓜を煮て棚に載せて置くと黴が生へる様な物で彼の黴は塵芥では御座いません恰度黴の種類虎列刺の病毒も（少しは違ひますが）矢張り種類は同で御座います、是れが人間の身躰に這入つては出、又外の人の身躰に這入り、又次の人と云ふ様に人間を渡つて歩るいて居る様なもので、遂に今日の様に漸々流行するので御座います、長崎に虎列刺が大變流行しますと直ちに私共が參りまして虎列刺の毒を取りまして、恰度植木屋が植木を作る様にして私は始終大切に取つて置きます、（併し私の身躰にも着物にも虎列刺の病毒は附いては居りません、チヤント消毒を致して居りますから決して恐ろしい事は御座いません）只今迄始終

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

虎列剌の病人の中に這入つて居つて、甚だしきに至つては一晝夜少々も寢ずに病人を診察した事もあります、汚ない物か私の身體抔にはねかつた事もありますが、私は今日迄虎列剌にもなりません、何にか咒でもあるかと云ふに何んにも咒もない。ケレども今日は皆さんに私が虎列剌に罹らない秘傳を無代價で御傳へ申しませう。

其病毒は何所にあると云ふに病人の身體から出まする排泄物、吐く物の中にも稀れには有りますが多くは瀉つたものにあります、先月の廿三日木挽町一丁目に虎列剌患者が有りましたが、其病人の瀉した物の中から病毒をとりました、長崎の種と東京の種とは別々にして置きまして其病毒を始終顯微鏡で見て居ります、此病毒が身體に這入るときに虎列剌になります、此病毒は只今では日本國中行き渡つて居る詰り今日の有樣ではいつ何時病毒が人間の身體に這入るかもわかりません、例之ば此（コップ）の水は確かに良い水……だらうとは思ひますが、虎列剌の毒が有るか無いか無ければ私に證人になれと言はれても證人に爲る事は御免蒙りたい、何故なれば此水は御覽の通り清水ですが是れにも病毒が無いとは云へない、一寸と見た所は極めて清水であつても此中に病毒の有る事もあります、濁り水なりとも其中に病毒があるとも限らない夫等の一寸とした間違ひから恐ろしい禍ひを來たします、折角虎列剌を豫防仕樣と思つても何んの役にも立たない、例之ば「私は決して虎列剌病には罹らない」抔といつて居る人でも豈計らんや虎列剌に罹る者が幾らも有ります、豫防の方法が悪いと決して完全の豫防には爲りません、私が始終病人に接して毒を取り扱つて居りましても虎列剌に罹らんと云ふは、豫防の方法が適當して居るから今日迄達者で居るのです、則ち豫防を致す

には僅か左の三つの仕方さへあれば日本國は虎列刺の根絶しにする事が出來るのです。

第一は今申す通り病毒が有りますから、其病毒を殺して仕舞ふ手段です、田舎の百姓が孤が畑に來て芋や茄子を喰ひちらしていけないから何うしたら好からうと云ふに、網を張つて捕ひたり鉄砲で打ち殺すが一番である、虎列刺も病人の身躰に毒があるのですから其毒を根絶しにするが必要にて毒を絶やす法を消毒法と申します。

第二には人々に依つて虎列刺になり易い人と、あり悪い人と有る、坪井君や宮本君の御咄しに成つた不消化物を食ずる人、不養生の人には虎列刺の病毒が附き易い、故に縦令病毒が身躰の中に這入つても病にならない様に丈夫にするのが最も太切な豫防の一です。

第三は大切なる事です東京に虎列刺が這入ても其病毒が増加ない様にすることにて、丁度狐が夫婦連れで來たならばそれは其儘にして置ても其子や其孫が出來ない様にさへすれば夫婦丈けなれば左程害は行りません、ソウ云ふ様にして防いで往けば東京に大流行がない斗りでなく、日本は健全なる無病の國に爲ります、これを致しまするには下水を良くして不潔物の土中に入らないようにするのであります。

先づ最初に消毒の方法から申しませう。消毒には種々の藥が有りますが皆確かに消毒に足るとは言れませんが、併し今日用ゐて居る消毒藥は病毒に入れて見て愈々効能の確かなものゝみで、此藥を入れますると病毒は目の前で死んで仕舞ひます。私が少し持つて参りました消毒藥を御日に掛けませう、則生石灰是れは山から取つて來た石灰石を焼くのです、是れにも色々種類がありますから悪るい生石灰も一寸と見た所では同じ様でありますが、製し方が違ひま

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すから能く吟味して成る丈け良い物を用ゐなければならん、是れを用ゐますと虎列剌毒は數時間の中に死んで仕舞ふ誠に容易い危險でも何んでもなく便利な消毒藥です、此の固い儘では往けませんが水を少し入れると粉になりますが、倘多く水を入れますと白き乳の樣なものができますから、之を石灰乳と申します。消毒に用ゐるのは即ち此石灰乳であります、水を生石灰にかければ非常に熱くなりまして迚も手を突込んで居る事杯は出來ません。故に此の生石灰を俵の中に入れて水をかけると、俵が燃へる位いに熱を發す、今是れ（生石灰）に水を入れて御目に掛けませう。

試驗

御覽の通り牛乳の樣になりますから、之を石灰乳と名けます。消毒するには石灰乳を用ゐます。病毒の中に入れると直きに菌が死にますが、倘ほも確かめる爲め、二十四時間置くと何んな强い虎列剌の菌でも死んで仕舞ひます。又是れは廉價い者で御座いまして、一俵三十錢位いですが流行中で御坐いますから、中には恐ろしい高い事を云ふ藥屋が有る、併し貴婦人方なれば十錢や二十錢は何んでもないが、今日やう〳〵暮して居る樣な貧乏人は消毒藥に十錢出すのは中々六ッケ敷く、消毒藥よりは寧ろ其十錢で米でも買ふ樣な始末であるから實際行はれない、故に石灰乳を一般に用ゐる事の出來る樣に派出所に配つて有りまする、ソして夫れは誰れにでも無代價で呉れますから若しも御近所に病人でも御坐いましたなら、早く最寄の交番に馳せ付けて石灰乳を貰つて消毒をするやう御諭しを企望致します。本所、神田、麹町、牛込、其他の區にも遣つてあるそうで御坐います、中にはまだ遣つて無い所も有りませうが、遲かれ早かれ各區に配りますから、至極便利で御坐いま

す。又消毒するには何の位いの分量にして宜しからうかと云ふに、是れに就いて御咄しがある。

石炭酸で消毒するに石炭酸水の中に木の栗を入れて、人が來ると少しふりかけます、丁度佛様に何かする様であるが、幾くら石炭酸でも夫れでは効能がない。甚だしきに至つては私も知つて居りまするが、或る地方では石炭酸水を小瓶に入れ門口につるさげて置く、何んであるかと思へば是れでも消毒の積りである、丁度疱瘡を除ける時に「鎮西八郎爲朝此に在り」と云ふ札を張つて置くと同しであるが、夫れでは何にもならない。次に申します方法で造りました石灰乳を用ゐるには消毒する物が一升有れば是れに其半分丈け入れると確かに死んで仕舞ふ、水を澤山入れて薄くすれば、夫れ丈け多くの分量を入れなければならん。濃ければ其割合に少なく入れて宜しい。例へば此コップの生石灰を一杯入れるならば水を（同じコップ）で十杯入れたなら恰度好い加減の割で有ります、消毒物が一升なれば其半分丈けの石灰乳を御入れになれば極く宜しい。

其次は皆さま御承知の石炭酸水で茶碗に一盃の石炭酸を同じ茶碗二十盃の水に溶かすと昇汞水千倍で御座いますが、是れは毒藥で御座いますから御注意を要します。其外に色々藥がありますけれども、先づ虎列刺の消毒をするには一番便利で恐れの無い者は石灰乳で御座いますから、先程申上た通り御近所に少しでもあやしい病氣が有りましたなら、交番から取りよせて撒布ろと云ふ事を御命じになるのが一番宜ろしい。

ソレからモウ一ツの消毒法は藥では御座いません。全體虎列刺の病毒は非常に強いもので一日に大層の人を殺す位いですが、又或る場合には非常に弱い者で、恰度松の木や杉の木の様なもので御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何故なれば杉や松は數百年經とうが少しも弱りません、併しながら若しも此木を横に倒して根を日光に暴露ときは、幾ら大木でも僅數日立つと枯て仕舞います、虎列剌の病毒は實に松や杉の木の樣な者で御座います。今試みに病毒に六十度の温度を加へますと五分の間に死にます、六十度と云へば湯茶をやう〳〵吹て飲む位ゐの度で御座います、夫故凡て食物は一旦煮て食も、水も一旦沸して飲みますれば縱令其中に虎列剌の病毒が這入つて居つても決して恐れる事はない、故に私は何んな物でも煮たものでなければ食べません、水を飲みたい時には沸した水を冷して飲みます、併し幾ら沸した水だとて蓋もせずに放つて置いては、何時虎列剌の病毒が這入つて發育するかも知れませんから、能く蓋をして置かなければならん、水計りでは無い牛乳も其通りで、其中には色々惡い生活物が澤山這入つて居りますが、沸立れば皆な死んで仕舞う、夫故私は牛の乳を御飲みになる御方には、何時でも沸して御飲みなさるやうに申上て居りますが、夫れも矢張り蓋をして置かなければ往けません。沸騰つた牛乳に良く蓋をして置きますと、五年でも六年でも腐ると云ふ事はない、私は七年前に沸して瓶に入れた乳を持て居ります、藥も何んにも入れませんが外から惡い者が這入らんから、今搾りたての新鮮しき牛乳と少しも變つた事は有りません。外の食物も皆同樣であります、夫故くどひ樣ですが、物に蓋をすると云ふは實に肝要な事で有りませう。若し蓋をしないと、蠅又は蚊杯はなしに這入つて喰ひたい者が有ると遠慮なしに食べる、ソして其蠅杯は所嫌はず汚い者にはとまります。夫故何處から虎列剌の病毒を以て來るか分りません。誠に危險なもので病毒の取次を爲ものて有ますから、

必ず一旦煮て其物には蓋をすると云ふ事は御忘れになつてはなりません。食器を洗ひますにも、水で洗うならば一旦沸したものでなければならん、私の秘傳と云ふは此所の事です。私は家に居る時も外に居る時も一旦沸した者でなければ用ゐません。顔を洗ふ時も口の中に入なければならないから、一度冷したもので無ければ口を漱ぎません。東京に居ましては夫程にしなくとも宜しいが、病人の澤山居る所では是れは實に肝要な事です。私が病人に接しても病毒に感じないと云ふは、別に藥もなければ法もないが、只三度〳〵食べる物は勿論温めて其上で食べる。是れに就て御咄しが有ります。日本に來て居る支那人は日本國の貧乏人の暮しが當り前、夫より惡いのは迚も日本で見る事の出來ない程な惡い暮しをして居て、實に不潔極つた有樣である、横濱に居る支那人抔も其通り、一枚の油揚を親子五人で食て居る位です、然るに虎列剌病は支那人の居る所には無いので御座います、第一に傳染すべき支那人に無い。今申す通りの暮し方であるから豫防する事抔は猶更無いので御座います、明治十年此方五回六回の流行が有りまして、明治十五年には十六万人、十九年には十五万の虎列剌患者が有りました、夫れで支那人の中には殆んど無い、しかし一所に暮して居る日本人には有りました、私も餘り不思議に思ひましたが先月長崎にて支那領事に掛合ひ支那人の居住する市街を掃除させんとしたる事がありましたが、領事の申すには「誠に有難し併し支那人は豫防抔と云ふ事は知ませんから、私が（領事自ら指す）往て説明して言ひ聞せませう、急に日本の御役人が來て清潔法を行ふ抔と云ふと驚くから三日間丈の猶豫を與へて呉れ、乾度解る樣に言ひ聞かせるから」と云ふ事であつたが、其後遂に斷然と「我々の住家に對してソンナ事をし

て呉るには及ばない」と云つて斷られたそうです。何故であるかと段々事情を聞て見ますと、ある長崎の新聞に「己の家の不潔なる所を日本人に見られては、國の耻だ國躰に障るから見せられない、國躰を辱る事は虎列刺所では無い、國躰を汚すのは恐ろしいから先づ斷る」と云ふ譯と記して有ました、其位汚穢ない住居を爲して居る者に患者が無いと云ふは詐りであらう病死したる者を内所で墓所に往て埋めるので有らうと云ふ疑がひが起りましたから、或る人が墓場にいつて、まさか戸棚の中に死人を置く譯に往かないから乾度葬りに來るだろうと支那人の埋めに來るのを待つて居りましたが、十日經つても二十日經つても葬むると云ふ事はない。ソコデ日本では大流行をして居つても、支那人の中には殆んど虎列刺が無いと云つても宜しい程ある事か判然りました。ハテ是れは面白い、支那人の眞似をしたら虎列刺に罹らないのなら何んでも眞似をするが能い、けれども穢なくして油揚を親子五人で食ふ眞似も出來ない、外に秘傳があらうと思つて早速聞ました所が「如何にも私の國では虎列刺は恐ろしくない、それは斯う云ふ妙藥が有るから今度も虎列刺が流行ますと、直ちに本國より取りよせて皆配つたから虎列刺にはならないと申しました、依て何かと思ふて其妙藥を見まするに、李の樣な形ちに周りを蠟で固めた者です、ソして其中に此位（直徑五分ばかり）丸藥がタツタ一ツ這入つて居る「支那人は是れを持つて居るから大丈夫、若しも虎列刺に成つた時は此丸藥を丸飲みにすると直ぐ癒る」と言ひましたから、私も考へて成程是れを販賣でもしたら儲るだらうと思つた。併し何うも不思議だ日本支那歐羅巴で、あらゆる藥を虎列刺の病人に用ゐても利く藥は無い、それ故虎列刺斗りは病氣にならないより外には虎列刺を防ぐ事は出

來ない、それが今度は譯も解らず支那で用ゐて居る丸藥が利く筈はない、成程横濱に來て居る支那人にも虎列剌は無い併し其支那人の本國の有樣を見ると、矢張り日本人の如く虎列剌に罹る者が多い、若し藥の功能があるならば右の藥の製造元、藥の問屋ある本國には一人も病人は無い筈であるして見れば、矢張藥ではなく外に何か秘傳がありそうな者だと思つて段々穿鑿して見まするど如何にも大切なる秘傳がありました、支那人は日本の人が氷水ラムネ杯を飲のを見て、大變に驚いて「日本人はアンナ冷たい物を飲んで野蠻だ、己れ杯は此通りだ」と云つて夏でも沸騰た茶を汗を流して飲みます。支那人は凡て口に入るものは必ず熱くして煮た物でなければ決して食べない、就中日本に來て居る支那人には其風習が一般に能く行はれて居る、此事は實際上虎列剌豫防に適當して居るから、是に依つて日本在留の支那人は、今日迄多くは虎列剌に罹らない原因にて、秘傳は即ち物を煮沸なければ食べないと云ふ一點であります。私は右の法を自分が身躰に當て、經驗して見まするに著しひ效能がありまして、長崎なり横濱なり流行の地を奔走しましても、今日迄病毒に感じません是れからも罹らない積りで御座います、其れ故豫防の專一は必ず召し食がる物は煮、水は沸騰して食がる樣に致すことにて、此事は女中にのみ御任せなさると往々間違を生じます、中には主人の事を聞きませんで古は物を持つて來て新らしい物だと言へば私でも仕方が有りませんし、又湯を水とを加へて是れは少し冷めませんけれ共杯と云つて出します。ソレ故貴婦人方が自身御出掛けなすつて差圖をなさるか、又は良く取締のできる人を附けて置きませんと、中々安心はなりません。此事を六ツケ敷くも何んでも無い樣ですが、固く守つて一々沸すと云ふ樣にする

のは、實際中々六ヶ敷い事ですから決して御召使ひにのみ御任せに成つてはいけません。

右は第一の方法にて病毒を消すことであります、第二の豫防法は前の兩君が已に演説せられましたから畧します。夫れから第三の病毒が來ても發育增加しない樣にすることを一言述べましやうが、之をするには土地を清潔にする事であります、例之ば溝渠、便所、椽の下杯は不潔物の集り易い所であるから、能く掃除をしなければならん。夫等の事は御演説に成つた後で御座いますから繰返して申しませんが、掃除をするのに汚い所丈け掃除をして充分と云ふ譯には參りません。總じて汚ないといふ所は眼で見ゆる塵芥の多くある所なれども、其實は外の人の目で見た所では奇麗の樣なれども汚なひ所がいくらもありまして、虎列剌は斯う云ふ所に好んで發育し、斯樣な所は虎列剌の病毒に取つては極く能い住居である。何となれば魚の腹とか風呂場流所等から出る汚い水其他色々の不潔物が地下に浸ミ込んでいまして、上から見ては奇麗でも地の下は汚ない、東京の市中はまるで溝渠で出來たと申しても宜しい位いで、溝渠の奇麗にならない中は東京の市中は奇麗であると云ふ事は出來ません。衛生の事は東京の溝渠の掃除をして汚ない物が地下に滲透む事の出來ない樣に石や煉瓦にて作り少しも外に洩れぬ樣にし汚れは直ちに海に流れて往く樣にしたならば始めて東京の市中は清淨の地で幾ら虎列剌が參つても大流行の恐れは無い。併し其完全の下水の出來る迄は止むを得ませんから、家の周圍を日々掃除し溝渠をも清潔にしなければなりません。

先づ是れが豫防の大躰の事で御座います。モウ一度之を摘んで申上げれば、第一は煮沸した物でなければ御口に入れない事、消毒をなさるには、石灰乳が

一番宜しい事、若し御近所に類似の病が有りましたらば交番から石灰乳を一刻も早く取りよせて早くかけろと御命じなされ且早速醫者を御招ぎなさること、第二は不良の食物を食らないこと其他不養生をなさらないこと。第三には家の內外溝渠抔を淸潔にする事等であります、幾ら政府や其他の人々が虎列剌を豫防しやうと思つても、夫等の事を御家に御居での御奧樣方が御注意なさいませんと無になる譯で、男子の方よりも一層率先して御注意下さるのは實に必要な事で御座いますから、何卒今日御出席の無い方にも御咄しなさいまして……折角惡疫の豫防をさられんことを希望いたします。

本會錄事

○八月臨時會　虎列剌病追々蔓延府下に於ても續々發病者あるに方り八月十日午後三時半より神田區錦町三町目東京醫學院に於て臨時會を開く其講談は本紙にも掲載する如く最初に宮本仲君（惡疫流行時の注意）と云へる題にて講演せられ次に（虎列剌豫防）と云へる題にて坪井次郎君次に（虎列剌の話）と云へる題にて中濱東一郎君懇切に講話せられしが暑を犯し來會する者六十有餘名一同熱心に聽講し散會せしは午後五時過なりき

當日長與專齋君出席之筈なりしが病氣の爲め欠席

○八月十日臨時會の節遠山椿吉君より衛生數へ歌二百枚寄送せられたるを以て同日の出席會員に配布せり玆に掲げて御厚志を謝す

○御注意　言ふべくして行ひ難きは衛生の一事にして講談を聞く毎に成程斯く衛生法を守ならば必らず健康を保つてしようかく豫防すれば傳染の憂はありますまいと口に出へても兎角壯健の時は己れの身體に異變なきを以て斷然其通り實行し難く躊躇し易きものなるが徒に思ふのみにして實に行ふ事をせざれば何の役にも立ちません多く世の中の人々は一朝病魔に犯され病蓐に伸吟するに至らば其病ひは平生の不養生より起因するを知らずして急に驚き慌て醫者よ藥よと奔走心配するが如き恰も盜賊を見て繩を索ふと一般にして時に或は危急の病ひを惹き起し恢復

し難きに至る實に恐る可き事てあります故に身躰を强壯にし病魔の侵入を防がんと思召さば常に壯健時の攝生法に注意せねばならぬとぞんじます其攝生法は本會に於て諸先生の講談と雜誌とあれば聽講なすつた方々も雜誌を御覽の方々も何卒皆樣御からだの爲め衛生法躊躇なく御實行あらん事を冀望致します

○諸先生方よりの原稿澤山有之候得共虎列刺豫防法は今日の一大急務にして本會の特に臨時會を開きし所以なれば本號には單に臨時會講演のみを掲載し前會の講演は順次に掲載可致候間左樣御承知下され度候

○會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方不尠雜誌配達其他種々差支へ不都合に候間御移動の際必ず御報知下され度候

○本年九月迄の會費御不納の方は下谷區練塀町四十三番地太田幾方本會事務所へ御送附被下度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候府内會員にして本月總會に御出席之方は其節御持參相願候若し總會の節御出席なく且又事務所へも御送附無之御方は會費請取人（九月十五日より三十日迄の内に）差出候間御本人御不在にても御解りに相成候樣願上候

左に會員諸君の宿所附有之候間一應御覽被下若し相違有之候得ば至急御報知被下度願上候

府内修身會員（前號の續き）

麻布本村町百六十九番地　高平清子
本所相生町二丁目四番地　布施運助君

地方修身會員

愛知縣西春日井郡中小田井村　松澤たつ子
神奈川縣横大綱山　高嶋くら子
山形縣西村山郡新宿村　今井政乃子

地方通常會員

埼玉縣浦和宿百三十四番地　伊藤やす子
鳥取縣邑美郡木町二丁目十番地　井尻きく子
山梨縣甲斐國中巨摩郡玉幡村　生知とう子
香川縣讃岐國那珂郡丸龜町大字風袋町百七十番戸　濱田うめ子
山梨縣甲府和泉町三丁目三番地　遂井よう子
新潟縣新潟市大川前通十番地　長谷川はま子
北海道廳札幌幼稚園　石川かめ子
山梨縣南都留郡谷村新町三百四十三番地　堀内きよ子
福井縣福井江戸下町十九番地　本部千代子
群馬縣利根郡沼出村十番地　利根川ひで子
三重縣紀伊國北牟婁郡尾鷲南浦八十番地　土井のぼる子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

熊本縣天草郡町山口村　千葉さだ子
熊本縣天草郡町山口村　遠山せつ子
宿所不明　大嶋すゞ子
仙臺花京院通二十八番地　松本竹代子
埼玉縣浦和宿百三十四番地　町田かな子
羽前國山形千歳園百四十八番地　正木きく子
長崎縣長崎區新大工町三番地　福嶋わか子
熊本縣天草郡町山口村　古莊とめ子
日向國延岡本町二十八番戸　兒玉しか子
熊本縣龜川村天草郡町山口村　小代いし子
栃木縣下野國安蘇郡佐野町四百二十八番地　遠山わかな子
愛媛縣和氣郡三津ヶ濱新町　明星くめ子
伊豫國喜多郡河之内　原田とむゑ子
羽後國飽海郡酒田今町十三番地　櫻井しん子
新潟縣古志郡長岡坂ノ上町百三番地　佐々木うめ子
山梨縣甲府市紅梅町　北川ふき子
岡山縣岡山區二番町廿八番邸丸山内　佐藤うめ子
愛媛縣讃岐國丸龜北平山町四十九番地　設樂その子
秋田縣羽後國北秋田郡東館町　平川ぬい子
秋田縣羽後國北秋田郡東館町　平川りゑ子
山形縣飽海郡松嶺町　森その子

羽前國山形七日町　關岡つま子
尾張國愛知郡半田村　小倉きく子
廣嶋縣江田嶋海軍兵學校官舍　小田まつ子
山形縣羽前國村山郡山形香澄　小野延子
播磨國飾東郡姫路博勞町七十三番屋敷　小野たけ子
相模國小田原新國町　嘉村だい子
福岡縣福岡區東港町八十二番地　吉田たね子
熊本縣天草郡山口村　吉田ふさ子
熊本縣天草郡山口村　吉富ゑも子
尾張名古屋白川町八番戸　米田のぶ子
岐阜縣美濃國東郡付知村八番地西一郎介閣　田口敬子
信州諏訪郡下諏訪村武井武方　武井いけ子
秋田縣秋田郡大館町　田村なか子
札幌北一條西六丁目一番地甲第一號スミス方　田中ひで子
岩手縣盛岡仁王小路四十九番地　長岡ます子
信濃國諏訪上諏訪村四百卆一番地　永田いち子
上毛相生町二百二十二番地　永澤みつ子
甲斐國甲府公園地内　長町耕平氏夫人
宿所不明　村田さい子
山形縣山形千歳園　山宮花子
愛知縣名古屋前津　山縣たか子

愛知縣愛知郡熱田中瀬村
二百五十六番佐藤方
仙臺區東一番町十一番地
和歌山市有田飛田町三番地
新潟市上大川前通十番町
三重縣伊勢國安濃郡津市岩田
綿内町十八番地木村方
横濱不老町二番地
京都市下立賣烏丸通西へ入十五番地
栃木縣栃木萬町安野方
大分縣
羽前山形

矢田とう子
守住のぶ子
近藤貞子
藤田もん子
脇屋てい子
竹中政江子
小崎千代子
荒川八重子
莊田菊子
柴原粂子

千葉支會會員

千葉縣千葉字市場九百五番地
同縣寒川村字長洲
同縣千葉郡字新町三千五百五十番地
同縣千葉町
同縣千葉字旭町六百八番地
同縣千葉旭町
同縣千葉町千二十八番地
同縣千葉町千九十九番地
同縣千葉市場町
同縣千葉旭町
千葉縣千葉旭町
同縣千葉町三十番地
同縣千葉町字旭町
同縣千葉寺町
同縣千葉町六十二番地
同縣千葉字吾妻町千百七十七番地
第一號
同縣千葉町字市場町四百卆四番地
同縣千葉町千二百六十番地
同縣千葉寺町字市場
同縣千葉寺町字市場
同縣寒川村長洲九百六十九番地
同縣同町三百三番地
同縣同町千一番地
同縣同町千百四十八番地
同縣同町四百廿二番地

池上すが子
坂倉ひさ子
長谷川もよ子
友野ぎん子
大須賀つる子
荻生きん子
渡邊たつ子
壁谷とく子
高梨しづ子
坪井やす子
堤こう子
長井すみ子
長尾ゑん子
永田はあ子
山本こう子
萩原きん子
深野榮枝子
小林ゆき子
小杉くら子
小林くみ子
栗谷ゑい子
榊原よね子
鹽野やを子
新庄きさ子
飛田てる子

府内贊成員

麹町區土手三番町四十一番地
麹町區三番町六十七番地
本郷區駒込東片町百五十五番地
麹町區三番町
駒込東片町百二十五番地

色川圀士君
巖本善治君
濱田玄達君
萩原三圭君
遠山椿吉君

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四谷區坂町四十六番地　小野里万之助君
本郷區駒込東片町百六十番地　緒方正規君
麴町區富士見町八町目十五番地同陽社　渡邊三平君
麴町區上二番町四十四番地　加藤弘之君
麴町區五番町十四番地　加藤照麿君
赤坂區氷川町四十七番地　南部甕男君
麴町區上二番町四十八番地　八木吉六君
麴町區三番町三番地　松原磐四郎君
日本橋區矢ノ倉町十二番地　櫻井郁二郎君
神田區松富町　菊地松亭君
宿所不明　木寺安敦君
神田區佐柄木町十一番地　宮本仲君
駒込西ヶ原　志賀泰山君

地方贊成員

宮崎縣宮崎新縣廳馬場左側　濱田政壯君
陸前國柴田郡大河原村　大澤三樹君
熊本縣京町一丁目始審裁判所官舍　上妻務本君
鹿兒島縣鹿兒島病院　高木友林君
豐後國豆田治安裁判所　筒井信廣君
石川縣金澤區石坂與部町卅二番地　中村順次君
福井縣武生病院　笹田宗太郎君
岡山縣岡山區東中山下十三番地　山川春三君
日向國延岡紺屋町五十番戸　山崎松太郎君
越後國古志郡長岡坂上町第十六戸　柳野直君
熊本縣天草郡姫戸村五十番地　松本式治君
群馬縣西群馬郡伊香保町八番地　木暮八郎君
群馬縣富岡高瀬村　齋藤壽雄君
福岡縣那珂郡春吉町八十二番地　木戸麟君
熊本縣京町一丁目始審裁判所官舍　三宅榮磐君
熊本縣京町一丁目始審裁判所官舍　平山能忍君

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

虎列刺患者報告

八月三十日內務省衛生局調

府縣名	初發月日	初發ヨリノ總數 患者	初發ヨリノ總數 死亡
東京	五月十六日	六二一五	三一五
内十五區		五四四	二六五
京都	七月十九日	一	
内上下内京區			
大阪	六月十七日	一、二一六	六二九
内四區西成郡		五六六	二九四
神奈川	七月十五日	六四九	四四二
内横濱區		四一〇	二二三
兵庫	五月十六日	二八〇	一三一
内神戸區		九五	三七
長崎	六月廿七日	二、六四〇	一、六五〇
内長崎區		七二五	五三五
新潟	七月十五日	一三	一二
内新潟區			
埼玉	五月一日	一	一
千葉	七月十三日	二三一	一三〇
茨城	七月十二日	三	三
群馬	四月廿三日	一	一
栃木	六月十八日	二	
三重	七月廿三日	四	二
愛知	七月十八日	二	一
靜岡	六月十五日	一六	六
山梨	六月四日	一四	九
滋賀	日	二	
岐阜	八月十八日	一	一
長野	日	八	五
宮城	七月廿一日	五	一
福嶋	日		
岩手	日		
青森	七月廿四日	三	一
山形	六月廿三日	五	一
秋田	日		
福井	六月六日	二三	一二
石川	日		
富山	七月十一日	四	一
鳥取	七月廿三日	五	
島根	七月三十日	四八	三一
岡山	七月五日	一六	六
廣島	七月一日	一〇九	三一
山口	七月九日	一、〇〇七	五九九
和歌山	七月十七日	一〇	六
德島	七月十九日	一	
愛媛	五月一日	二八	一一
高知	七月十九日	八	三
福岡	七月八日	一、七九〇	一、一七七
大分	七月七日	二六七	一四三
佐賀	七月七日	三六五	二一五
熊本	七月十二日	六一五	三五六
宮崎	八月十一日	五	四
鹿兒島	六月三十日	一七一	一一三
沖繩	日		
奈良	七月廿二日	九	五
香川	七月十五日	六四	一六
北海道	八月十四日	二	一
合計		一〇、二七九	六、〇七一

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

遞信省認可

會員諸君に望む

本會設立以來次第に盛運に赴き今日にては無慮三百名の會員と一支會の設立を見るに至りしも唯毎月一回の講談會と隔月一回の雜誌にては到底實際の効益を社會に普及するに足らず勿論雜誌を增刊し且つ衣食住育兒看病等に就て實際の事業を興し廣く公衆の幸福平和を增進せんとこそ本會の素志ありとは云へ會運猶微弱にして其機に至らず常に甚だ遺憾とする處なり、會員諸君は固より衛生の必要を知り給はん從つて婦人衛生會の事業の効益あることを認め其實行と普及とを希望せらるゝならん請ふ自今一層奮勵して各々出來得る丈け同志を勸誘し衆力を結合せられよさらば次第に勢運盛に基礎堅まり本會の事業を擴張する又難きにあらざるべし、社會の事總べて單身孤力を以て成就するものにあらず殊に本會は一個人の私有にあらずして會員諸君の衆合躰あり故に本會の事業は悉く會員諸君の熱心に依賴せざるべからざるなり

私立 大日本婦人衛生會

御注意

會計幹事　小石川區金富町三十三番地　濱尾作子

會員諸君にして御轉居の際何等の御報知なき方多く雜誌配達其他種々差支へ甚不都合に候間御移動の際には必ず御報知被下度候

會費御不納の方は至急事務所まで御送附被下度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌編纂委員　荻野ぎん子　鈴木まさ子

發行所　東京下谷區練塀丁四十三番地　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京麴町區三番町六十七番地　嚴本善治

印刷人　東京神田三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐

秀英舍印刷